



西郷南洲翁揮毫

ご挨拶

理事長 吉永龍暘
会長 吉永龍奏

暑中お見舞い申し上げます。

会員の皆様にはお変わりなくお元気にお過ごしのことと存じます。ようやくコロナも落ち着いて参り、活動の範囲が広がっております。

令和三年度行事であった日本全国吟詠コンクール決選大会が、三月二十五日に開催されました。東京地区の代表として当会から四人が選出されていましたが、そのうち、岩井龍絢さんが和歌の部第三位入賞、同時に壮心吟士権者獲得。また、漢詩六段以下の部で米田梢水さんが準優勝と日頃の成果を発揮され、南洲吟道会にとりましても、大変名誉な事でありました。また九人の皆様が応援に会場まで駆けつけて下され、ありがとうございます。選手の励みになったことでしょう。会の代表として感謝申し上げます。

また、愚娘龍奏が、わりと日課になっていたという冬の夜のジョギング中に、脳卒中を発症し、救急搬送されました。左半身の麻痺と感覚の麻痺と構音障害を抱えました。会員の皆様には殊にご迷惑やご心配をおかけいたして居り、お詫びを申し上げます。本人は『必ず元通りになる!!』という信念のもとにリハビリを重ねております。今しばらくお許しとお時間を頂きたいとお願いを申し上げます。令和四年度は、思いがけず会長不在となっておりますが、南洲吟道会の結束と発展の為、新役員にてご尽力頂きたくお願いを申し上げます。また、特に今まで長い間、経理局長という重責を担って下さった川村龍暢さん、他にも役員としてご尽力いただいた方々へ心より感謝申し上げます。また、病気を抱えていらっしゃる皆様方には、ご無理をせず、お身体第一優先とし、快方へ向かいますようお願い致します。

会存続の為に会員の増強が第一です。どうか会員の皆様にはお一人でも入会して頂けますよう心よりお願い申し上げます。又九月二十四日(土)野方区民

会報

「敬天愛人」第五十六号

発行日 令和四年七月十五日
編集人 南洲吟道会 広報局
発行人 理事長 吉永龍暘・会長 吉永龍奏
発行所 〒一六五-〇〇三五 東京都中野区白鷺一三四一五
公益社団法人 日本吟道学院公認 南洲吟道会
団体名 電話・FAX: 〇三三三三三〇一七〇〇九

ホール日本吟道秋季吟道温習会を開催予定致して居ります。会員全員の参加を希望致します。奮ってご参加ください。

令和四年度のご活躍をお願いしてご挨拶とさせていただきます。

令和四年度春季昇段審査会無事開催

指導局 菊田龍瑞

ソメイヨシノの桜がおわり、八重桜の季節を迎えた令和四年四月十七日、中野区白鷺高齢者会館二階ホールに於きまして、令和四年度春季昇段審査会が開催されました。

吉永龍暘理事長、公認審査員の赤池龍徳先生と湊山龍牙先生の厳正なる審査の中、審査に臨む会員の嬉々とした吟を耳にすることができました事は無上の喜びにも似て、審査のお手伝いをする私たちも力がいりました。

コロナ感染症の脅威の中、人との接触を避ける、大声を出さない事、そんな制約をもう二年間強いられていたのは詩吟の世界も同じ。会員の皆様もどれだけの不自由を感じ、ご不便な日々を過ごされて参りました事かと思えますと、本当に感無量です。

参加人数は十数名でしたが、各々精いっぱい吟声をご披露できました事、龍暘先生からのお褒めのお言葉と共に全員合格との結果を頂き、皆様達成感を頂けたのではないかと拝察いたします。

外出禁止とされておりました方も各自、感染予防に留意することは勿論のことですが、今年には用心しながらも人と交わること、ともに参加して会が盛り上がり、また皆様の健康にも繋がってゆきます事を願って、大きく一歩前進できました事をここに報告させていただきます。

龍暘先生からの耳寄りな情報といたしまして、当日参加できない方のスマホ参加の方法を伝授してくださいました。今後、重宝に利用価値が高まると思えました。テープ審査の代わりに便利になると思えました。

日頃のお稽古の時より録音しておくといとの先生からのアドバイスがございました。是非 活用してみてください。

◆令和四年本会昇段審査会開催

日時 四月十七日(日) 十四時開催
会場 白鷺高齢者会館

審査結果発表(敬称略)

初伝	足立英洲	初伝	長島勝洲
四段	中川晋洲	四段	秋山政洲
四段	恩田翔洲	中伝	新妻眞水
五段	安齊治水	九段	吉沢強祥
十段	小室慶龍	範師	吉沢麗龍
範師	萩野進龍		

以上の方が合格されました。ご活躍をお祈り申し上げます。欠席の方が居りましたが、従前通り、事前にテープ録音して理事長に提出、もしくは会場に持参して下さい。スマホ審査も受け付けます。

指導局



受験者・理事長・審査員・指導局の皆さん

◆令和四年日本伝統文化吟友会(前ビクター吟友会)

全国吟詠コンクール東京地区大会 本部

日時 五月二十八日(土) 九時五十分 会場 野方区民ホール
本会からは六名が挑戦し、茂呂肇・山田恵美子・猪浦雅之・吉澤強(敬称略)の四名の方が八月二十日(土)草加市アコスホールの関東地区大会に出場します。関東地区大会で入選すれば十一月二十三日(日)金沢の全国大会に出場となります。ご健闘を祈ります。

◆令和四年本会定時総会

日時 六月五日(日) 十四時開催

会場 白鷺高齢者会館

総務局

出席21名、委任状44名、欠席2名。会員定足数は68名。開会の辞・長友総務局長。会詩合吟・猪浦氏先導。理事長より二年ぶりに総会を開催できたことの喜びと会長の症状が快方に向かっているとの説明あり。三年度事業報告・コンクール優績者・新入会員の紹介。三年度会計・監査報告・安永経理部長・赤池監査役。四年度事業予定。新役員の紹介(名簿参照)。質疑応答。閉会の辞・大塚総務部長。閉会后、各教室の現状、及び新副会長が抱負等を述べました。

◆第七十二回日本吟道全国大会

主催 公益社団法人日本吟道学院
日時 令和四年六月二十一日(火)
九時四十分

会場 江戸川区総合文化センター

合吟「九段の桜」先導 長友龍瑠
吉永龍暘 長友龍瑠 児玉龍智
菊田龍瑞 西谷龍邦 藤田龍香
稲葉龍誠 山田龍璣 猪浦雅龍
小室慶龍 手塚憲龍 吉澤強祥
野澤純城 安齊治水



啓蟄のとき「詩情」菊田龍瑞



総会 吉永龍暘理事長のご挨拶



全国大会参加者一同 ロビーにて



総会 参加者による会詩合吟

式典

令和四年度顕彰者芳名 本会関係 (敬称略)

宗鑑 横山龍治 赤池龍徳

宗師 藤田龍香

高齢者特別表彰・ゴールド表彰 佐藤千祥

◆正会員吟道大会 (十四時より日本吟道学院定時総会)

日時 令和四年六月十二日十時より 会場 主婦会館プラザエフ
本会から永田龍遊さん・山田龍瓊さんが出吟しました。

◆第十七回薩摩琵琶 鶴陽の会 (おさらい会)

主催 薩摩琵琶鶴田流鶴陽の会
日時 令和四年七月七日 (木) 開演十三時 なかの芸能小劇場

教場だより

私の挑戦

座間南洲吟道会会長 岩井ミイ子 (龍絢)

私のふるさととは、福島県の風光明媚なところで、会津磐梯山を仰ぎ見ながら育ちました。父は錦城流の詩吟を吟じていたので、幼い頃から父の吟を、子守歌のように聴いて成長しました。

ところが、当時の日本は、今のロシアとウクライナの悲惨な戦争の如く、吟どころでは有りませんでした。

女学校の時、挺身隊で国鉄に入り、そのまま職員となり、終戦後、運よく、東京の国鉄本社に転勤出来ました。そんな時、本社の地下で金曜日になると夕方、鈴木鶯風先生のお稽古の声が聞こえてきました。ですが、その頃の私には、とても吟ずる環境では有りませんでした。その後、結婚して相模原の公団に移りましたが、それでも詩吟の教室が有り、ついにサークルに入会しました。先生が偶然にも鶯風流鈴木鶯風先生のお弟子さんでした。

昭和三十五年から子育てをしながら、主人と共に吟を始めましたが、その後、公団の先生がお亡くなりになり、主人と相武台支部ごと十五名のお弟子さんと吉

永龍陽先生の会へ入会しました。そこで公団から現在の座間に移り、二階の六畳の部屋を十畳の部屋へと改築し、お稽古場を夫が造ってくれました。さまざまに大会にも送り出してくれました。しかし、その夫も十五年前、他界しました。詩吟を始めから五十五年の歳月が過ぎ、私が続けてこられたのも、吉永先生の暖かい人間性溢れるご指導の賜と深く感謝しております。

省みれば、お弟子さんの三人の方々が、ガンに侵され、その一人が臨終まで「心なき」を吟じていたそうです。又もう一人の方はお孫さんの結婚式に祝吟を吟じたくて病院からハイヤーで習いに来ていました。そして、立派に披露宴で吟じられ、一ヶ月後にお亡くなりになりました。三人目の方も座間の大会に出演したくて、病院からマイカーで通っていましたが、念願かなわず大会一週間前に霊山へ旅立たれました。此の三人の方々のお姿を通して、自分の弱さに負けないで、信念を貫く事の大切さをしみじみと痛感させられました。

現在は、コロナ渦のため、お稽古は二年半お休みしています。私なりに何か目標を持ちたいと思い、日本吟道全国吟詠コンクールの吟士権に挑戦しました。予選は四回も日時が変わりましたが、予選を通過し、三月二十五日に全国吟詠コンクールが開催され、運よく、和歌の部第三位に入賞、併せて壮心吟士権者の称号も頂きました。これもひとえに、吉永龍陽先生はじめ、応援に来て下さった方々の励ましのお陰とあつく心より御礼申し上げます。誠に有難うございました。



令和4年3月25日に頂いた賞状です。

会員だより

詩吟とわたし

鷺宮教場 新妻眞水

なぜ、詩吟なの？友達から問われ、考えてみました。大きな声を出すこと、カラオケ・コーラス・朗読他、候補はあったのです。詩吟は漢詩を吟ずる位のことしか解っていません。まずまったく素人です。知人の友人に出会って、何も考えずに見学、そして入会してました。地の利もあり、鷺宮教場は、私の勤務先と同じ施設ということもあり、心強く、縁なのかと思いました。

平成三十年五月十日に入会、あれよあれよと、次の年には四十五周年記念大会にトップバッターで参加していました。吉永龍暘先生のご指導と鷺宮教場の先輩方のお陰と感謝しております。皆様ありがとうございます。

私は詩吟の言葉が好きです。

私は詩吟のふし回しが好きです。

私は詩吟の語りが好きです。

今は何も考えずに好きで良いかと、俗にいう、三年目の悩みもありましたが、考えません。

コロナ禍、長期休み中で教室にも行けず。マスク着用と、声を出すこともはばかられる今日ですが、また以前のように大きな声が出せる日がくることを信じて、あせらず、ゆつくりと進んでいけたらと思っています。これからも、私のこと、詩吟さんよろしく願います。

今後の総本部・本会の行事予定

日本吟道学院夏季吟道大学講座

日時 八月二十四日(水)・二十五日(木) 会場 江戸川区タワーホール船堀

本会日本吟道秋季吟道温習会

日時 九月二十四日(土) 十四時～ 会場 野方区民ホール

本会秋季昇段審査会

日時 十月九日(日) 十四時～ 会場 白鷺高齢者会館

第二十六回日本吟道全国吟詠コンクール決選大会&日本吟道名吟大会

日時 十月十二日(水) 十時～ 会場 江戸川区タワーホール船堀

吉永鶴奏 第三回「時分の花」

日時 十二月十八日(日) 会場 青山鍬仙会

本会理事会

日時 十二月二十一日(水) 会場 白鷺高齢者会館

令和五年新春賀詞交歓会

日時 一月七日(土) 会場 日本吟道会館ホール

第五十八回日本吟道青少年全国大会&壮心の集い

日時 三月二十八日(火) 十時～ 会場 すみだトリフォニー・小ホール

お知らせ

本部

令和四年五月七日開催の日本吟道学院理事会にて、理事長より、本会の公認審査員として新たに八名の方が委嘱されましたのでお知らせします。

(敬称略)

児玉龍智 西谷龍邦 永田龍游 稲葉龍誠 大塚龍優 猪浦雅龍 茂呂眞龍
手塚憲龍

編集後記

広報局

六月五日の本会定時総会で新役員の発表がありました。広報局においては曾根龍富編集部長が退任され、佐藤千祥さんが後任となりました。宜しくお願ひ申し上げます。曾根様の広報局での活躍に尽力には感謝申し上げます。さて高齢化による会員の減少という中で、理事長は全員参加型の改革に舵を切りました。私達にできること。初心に戻り、各自、各会、各地域での地道な普及活動を行うこと。本会主催の行事には都合のつく限り、参加すること。ホームページ、会報に写真・動画・文等を投稿すること。(話題は何でもOKです。)できることから始めてみませんか。九月の温習会は盛大なものにしたいものですね。

広報局長	手塚憲龍	記録部長	稲葉龍誠
広報部長	萩野進龍	編集部長	佐藤千祥
HP担当	菊地務		